

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	13-133	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The association between high-risk behavior and central nervous system injuries: analysis of traffic-related fatalities in a large coroner's series. 交通事故死の検死に基づくハイリスク行動と中枢神経系損傷の関連</p>		
執筆者		
Pakula A, Shaker A, Martin M, Skinner R.		
掲載誌		
Am Surg. 2013 Oct;79(10):1086-8.		
キーワード		PMID
中枢神経系、自動車、バイク、検死、リスクファクター、行動パターン		24160804
要 旨		
<p>目的： 将来の予防方策を検討する基礎として、中枢神経系の損傷に関連した交通事故死亡を伴う自動車とバイクの運転手の行動パターンの分析を行った。</p> <p>方法： 2009年1月から2012年6月までの42ヶ月間におけるケルン郡の検死官によるデータを使用した記述研究である。中枢神経系の損傷は、外傷性脳損傷、頭蓋底骨折、脊髄損傷、頸椎損傷とし、衝突の状況などの環境要因や運転手の行動パターンなどのデータを解析した。</p> <p>結果： 同郡における当該期間の自動車（バイクを含む）の事故による総死亡数790名のうち、672名（86％）が来院前に起因する死亡であり、検死によって重症中枢神経系損傷と診断された514症例を対象とした。491例は、自動車の衝突に起因し、23例はバイクによった。自動車の衝突事故では、358名が運転手で、男性が81％であった。運転手のうち286名（80％）はシートベルトを着用していた。また毒性学的分析によると、運転手の192名（53％）が法定制限である137mg/dLを超えたエタノールの平均濃度を示した。また、運転中に携帯でメールを打っていた者は162名（45％）を占めていた。道路や天候の影響は死亡者の5％未満であった。バイク死亡事故者（23名）は、すべての犠牲者がヘルメットを着用していなかった。</p> <p>考察： 致死にかかわる行動要因の分析で、死亡との関連のある中枢神経系の検死データを報告している。物質乱用と注意散漫な運転が、自動車における交通事故死亡の主要な要因であり、バイクではヘルメットを着用していないことが、バイク死亡事故の主要な要因であった。</p>		